

ユニバーサルデザインまちづくりガイドライン素案 に対するパブリック・コメント意見及び区の考え方

■意見募集期間 平成 22 年 12 月 24 日（金）～平成 23 年 1 月 28 日（金）

■意見件数等 75 件（12 名）

意見種別	件数
ガイドライン全般に関するもの	15 件
ガイドラインの記述内容に関するもの	24 件
ユニバーサルデザインまちづくりの推進に関するもの	18 件
その他のまちづくりに関するもの	18 件

■意見の反映等

- ・ガイドラインに反映するもの 7 件
- ・考え方は盛り込まれているもの 17 件
- ・質問に答えたもの 9 件
- ・趣旨を踏まえて推進するもの 10 件
- ・参考にするもの 32 件

■パブリック・コメントによる意見をガイドラインに反映するもの

意見の内容（要約）	反映する箇所	反映させた内容
<p>ハード面の整備はとても詳しく、わかりやすく載っていると思うが、ハード面の整備の理由がわからなければ、人は使いこなせず、気づくこともできない。</p> <p>「人の教育」の部分をわかりやすくアピールすべきである。</p> <p>聴覚障害者は、自動車の警告音や走行音が聞こえず、外見からは障害があることが分からないため、生活道路や狭い歩道では自動車や自転車に対して危険を感じる。広い道路や自転車専用道路を整備してほしい。</p>	<p>P84、P85</p> <p>3. ユニバーサルデザインのまちづくりの推進</p> <p><つくり手の役割></p> <p><行政等の役割></p> <p>P36</p> <p>取組2</p> <p>◆まちの現状と課題</p> <p>○歩きにくい歩道</p>	<p>「まちを利用するさまざまな人々についての理解を深め、(略)従業員(職員)等の研修や教育が必要です。」という項目を追加します。</p> <p>「歩道の幅が十分に確保されていないと、車いす使用者や視覚障害者、聴覚障害者をはじめ一般の通行人にとっても、通行しにくい状況になります。」とし、聴覚障害者は、歩道の幅が十分確保されていないと通行しにくいことを示します。</p>
<p>デザイン化されたサインの色彩では、高齢者・色覚障害者対策も必要である。高齢者には青と灰色の組み合わせに問題が有るようである。</p>	<p>P106</p> <p>資料編</p> <p>用語の説明</p> <p>色覚障害</p>	<p>「色覚障害(色の見え方による留意点)」を記載します。</p>
<p>ガイドライン策定時には、説明会の参加人数、平成20年度・平成21年度・平成22年度の検討状況、有識者会議のメンバーの肩書きと人数、庁内検討会議のメンバーや設置要領等を掲載すべき。</p>	<p>P97</p> <p>資料編</p> <p>ユニバーサルデザイン のまちづくりガイドラインの策定経過</p>	<p>策定に係る検討経過、パブリック・コメントの実施状況及び説明会等の開催状況について記載します。</p>
<p>ガイドラインの対象とする範囲について、</p> <p>①歩道状空地とはどんなものか具体的な例を示してほしい。</p> <p>②公開空地とオープンスペースとの違いがわからない。</p>	<p>P101～P104</p> <p>資料編</p> <p>用語の説明</p>	<p>歩道状空地、公開空地及びオープンスペースについて、用語の説明を記載します。</p>
<p>ガイドラインの対象とする範囲について、私道などとあるが、なぜ道路(私道も含む)ではいけないのか。</p>	<p>P5</p> <p>④対象とする範囲</p>	<p>「道路」と区別していた「私道」を、「道路」にまとめます。</p>
<p>字が小さい部分があり、老眼鏡をかけても読めない。</p>		<p>写真の説明文字の大きさなど、見やすいように工夫します。</p>